

はじめに

本書は、ドイツ語でもっとサッカーを楽しみたいという方のために企画されました。ドイツ語歴はそこそこあるけれど、サッカー用語となるとさっぱりという方、あるいは、サッカーには興味がある、ドイツ語で応援できるならやってみたいという方に興味を持っていただけたら幸いです。筆者がほぼ 15 年にわたって収集してきたサッカー用語集がベースになっています。

サッカーの母国はイングランドだと言われますが、イングランドサッカー協会で最初の競技規則がまとめられたのは 1863 年のことです。では、ドイツではいつ頃、どのようにしてサッカーが広まったのでしょうか。ドイツサッカーの父と呼ばれる人物がいます。ブラウンシュヴァイクのギムナジウム (高等学校) の英語教師だったコンラート・コッホ (1846-1911) です。イングランドから帰国したコッホは、1874 年に生徒にサッカーを教え、翌年には自ら競技規則をまとめました。これがドイツサッカーの始まりとされています。

現在、私たちが耳にするドイツのサッカー用語の多くはコッホの功績によるものです。コッホは、子供たちに言葉を根づかせたいなら、正しい翻訳だけでは不十分だと考えました。「色のない」(farblos) いかにも作り出した語ではなく、「力をもって」(voll und kräftig) 耳に届く言葉でなければならぬと考えたのです。例えば、goal という英語をそのまま外来語として導入することを、コッホはよしとしませんでした。一方、ドイツ語には得点を指して使われる語に **Mal** がありますが、コッホはこれも弱い、と考へ、最終的に **Tor** (門) を提案します。このような事情を踏まえると、現在の **Tooor!** という表現には、確かに私たちの心に響く何かがある気がします。

いわゆるサッカー用語は、大きく、狭い意味での専門語と、主に話し言葉で用いられる特殊な言い回しに分けることができます。前者には例えば、ルールに関するもの、プレーに関するもの、ポジションに関するもの、戦術に関するものなどがあります。一方、後者には、選手同士やファンの間で用いられる言い回しがあるほか、メディアによってもさまざまな表現が生み出されています。**Fußballgott** (サッカーの神様) などちょっと洒落ていると思いませんか？ これらサッカー用語の紹介が、本書のいわば肝となる部分です。ドイツサッカーとドイツ語の奥深さを楽しんでいただければと思います。

最後に、本書は三修社編集部の伊吹和真さんの尽力がなければ完成には至りませんでした。膨大な量のデータを、驚くほどの根気で整理してくださいました。また、ドイツ語に校正には **Wolfgang Höcht** さんに協力いただきました。では、**Es ist Zeit für Fußball!** (サッカーの時間です！)